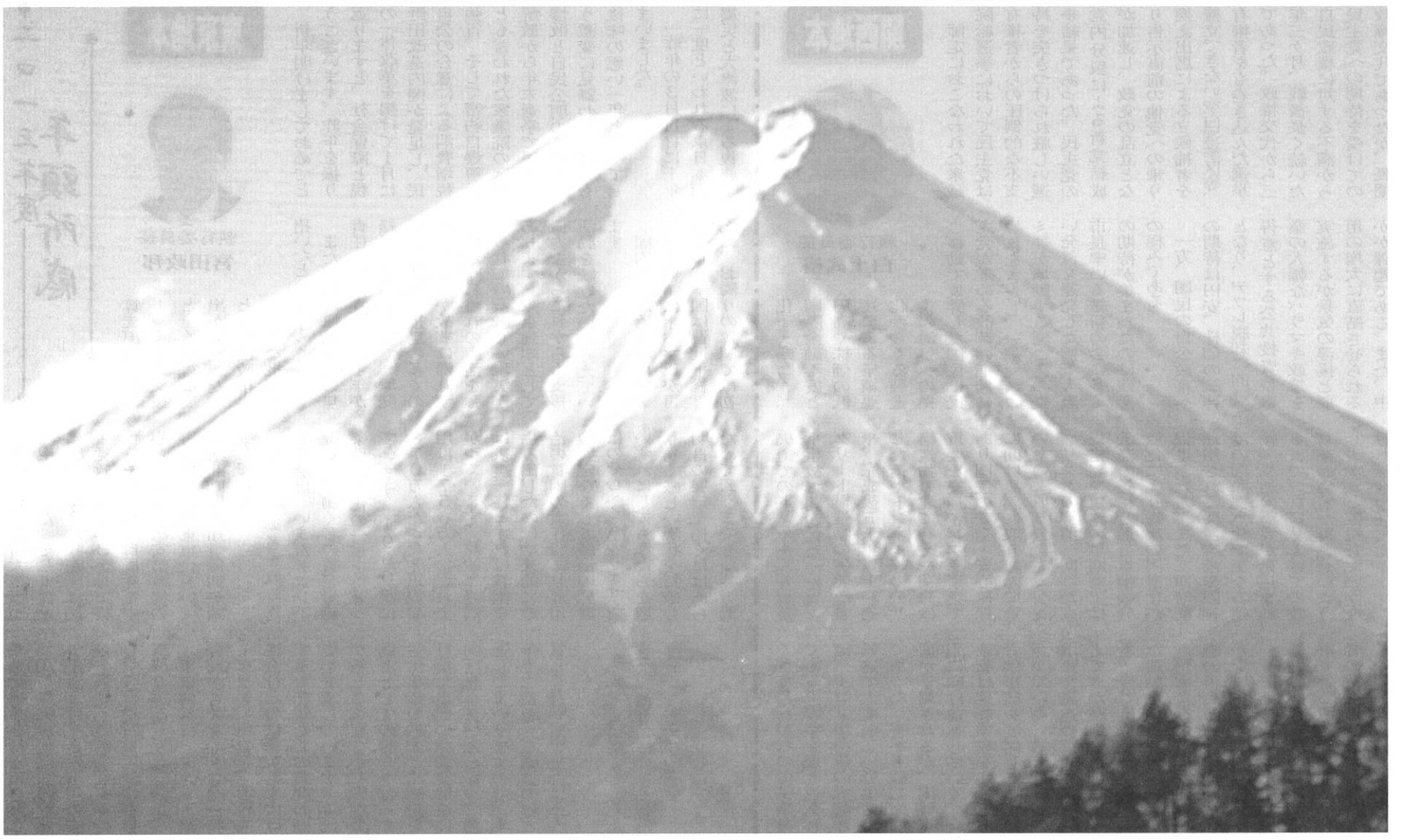
2013年
1月25日
第513号

新運転

TOKYO　JTUC DRIVERS CRAFT UNION

発行人
新産別運転者労働組合
（略称・新運転）
編集兼発行人　太田　武二
〒110-0003
東京都台東区根岸3－25－6
TEL 03－5603－1015
FAX 03－5603－5351
mail：sinunten@yahoo.co.jp



謹賀新年

二〇一三年元旦
新運転

中央執行委員長
篠崎庄平

いま、わが国の政治・経済はかつてない厳しい状況に置かれている。ひと昔前ならば日本を評して経済は一流、政治は三流と陰口が聞かされていたものだったが、今では双方とも三流とでもいうのだろうか。ともかく政治が非道すぎる。三年前に政権交代をしたものの民主党はいいところなしで又、元の木阿弥になって仕舞った。三百有余議席を抱えながら挙党一致が出来なかったのである。常に衆議院は議員による反対・賛成が多く、そのくせ国会解散を恐れていて一定の方向づけがなされなかった。

そして様々な経過はあったものの旧臘（12月）十六日に衆議院解散、総選挙となった。総選挙の結果はご承知のとおりで民主党は大幅に議席を失い、かわりに自民党が大量得票した。この選挙方式の凄さは一人一票で異なる二人の候補者名が記入されるという制度であり、小泉純一郎氏がかの郵政選挙で勝利したのと全く同様の結果になったことである。

結果的には民主党没落の立役者となった感のある野田首相は、それ以前の一年内閣制のなかで立派だったと私は思いたい。壊し屋小沢一郎氏にそしられ、その他の大物、小物議員から只ただ解散総選挙は反対との声も多数あるなかで消費税引き上げ、TPPにも参加の意を伝え、ぶれなかったのはある意味懸命だった。今にして思えば議席数に頼ることもなく自らの意見を貫いた精神力は通常では出来ないことである。小泉純一郎首相後に替わったいわゆる一年総理のなかで群を抜いていたと思える。安倍晋三氏、福田康夫氏、麻生太郎氏の自公民政権時代、そして民主党から組閣した鳩山由起夫氏、管直人氏などに決して決められなかった一年総理だった。われわれはこうした類希な人が民主党に居たことを忘れることなく覚えておこう。

新年を迎えた今日、天下をとった自民、公明両党の連立政権がどう対応していくのかは暫く見ていなければならない。早速総理となった安倍晋三氏が打ち出したのは「アベノミクス」と言われている。デフレからインフレへと経済を進めていくための骨格を直し、この20年間、デフレのもとで様々な企業と国民各位の経済と生活の道筋を替えていくとしている。インフレを単に忌避するのではなく目標を2％程度とし、除々に進めるとしている。この経済政策の変更をするに学者、経済界から選任した人たちを中心とした素案づくりに入り、日銀にも同調して貰うともいう。これらの方式は連立している公明党は当然としても協調してくれる政党にも働きかけるというが、どの政党が同調してくれるのかは疑問が残る。そして雇用拡大をも盛り込むらしいが、どういうことになるのか。

一方で、新聞・テレビなどのマスコミによると安倍首相は憲法を改正し自衛隊を国防軍に代え、アメリカとの集団的自衛権も日米同盟の強化の一環として認める意向らしい。尖閣諸島や竹島をめぐる中韓との緊張関係が背後にあるという。

とにかく日本が位置するのはアジアである。そうである限りその一員として今後も国際協調をして貰いたいし、東日本大震災の復興や福島原発事故の汚染対策、沖縄の米軍基地問題など山積する国内問題にどう道筋を開かせるか我々の力量が問われる一年となる。

中央執行委員長	篠崎　庄平
副中央執行委員長	
関西職別労供委員長	白土　武裕
副中央執行委員長	
東京地本委員長	宮田　政邦
中央書記長	
東京地本書記長	太田　武二
中央執行委員	
埼玉地本委員長	折井　洋之
中央執行委員	
滋賀地本委員長代行	楠　真一郎

労供労連役員一覧

会長	篠崎　庄平
会長代行	根本　義弘
副会長	松居順一郎
〃	宮田　政邦
事務局長	桑嶋　正
事務局次長	太田　武二